〔結果〕

測定の Within assay error は C.V. 3.7～9.0%, Between assay error は C.V. 4.6～12.5% であった.

One Step Sandwich 法との相関は $\gamma=0.91$ と良好であった. 使用血清量, 操作法, 温度, などの面からみても, 日常の臨床検査に有用だと思われる.

4. CEA Radioimmunoassay Kit (ミドリ十字) の使用経験 (臨床的検討)

○松岡順之介　後藤　雅博
松井　正典
(小倉記念・放)

(目的) 主として原子力公社により製造され, ミドリ十字社によって輸入された二抗体法による CEA の測定キットの結果を臨床的に検討し, ダイナボット社のサンドイッチ法と比較した. また αFP との結果をも比較した.

(方法) 1976年夏以来正常者 35 例, 良性疾患 38 例, 悪性腫瘍 60 例, その他について検討した.

(結果) 正常者 12ng/m*l* 以下, 良性疾患 20 数 ng/m*l* 以下, 悪性腫瘍の 23% 以上が 20 以上を示したが 0～1ng/m*l* が 42% あった.

年齢的に高齢者ほど, また女性より男性が, 非喫煙者が高値を示す傾向はあるが, 現段階においては統計的に有意ではない. 二抗体法はサンドイッチ法に比較して, 高値の場合に極端に高くなるので印象的とはいえる.

α FP 値との対照において, 低 CEA, 高 α FP を示す 3 例は肝癌, 肝硬変であり, 高 CEA, 低 α FP の 7 例中 6 例は転移 (+) のものであった.

これは肝腫瘍の一次, 二次性決定の一助となる.

5～9.

座長　矢野　潔

甲状腺検査の簡略化がすすみ, Res-O-mat に代わる Res-O-mat microtest が, また T_4 測定においても RIA kit が発表された. これらは, 必要血液量が少なくてすみ, 検査時間も短縮され, また室温で検査可能, 等の簡易化された点が多く, しかも従来の検査法による結果とよく相関するので今後は広く使用される検査法となろう.

甲状腺シンチについては ^{201}Tl chloride および ^{123}I による発表がなされた. ^{201}Tl chloride では, 従来 negativ で表現された mass が positiv で表現される便利さがあるが, 悪性か否か診断および Back ground を考慮しての測定時間の決定等については今後検討さるべき問題がある. ^{123}I 使用の場合は ^{131}I と同様の Image をうることができるだけでなく, 橋本氏病の場合にはむしろ勝っているようである. その上低エネルギー短半減期であるので今後甲状腺シンチに大いに利用さるべき核種であろう.

5. Res-O-mat T_3 microtest による甲状腺機能検査

○北川　晋二　鴛海　良彦
仲山　親　森田　一徳
古賀　一誠　井本　武
和田　進　松浦　啓一
(九大・放)

今回, われわれは, 甲状腺機能検査の一つとして, マリンクロット社より開発されたレゾマット T_3 マイクロテストを実験したので, 報告する. 原理は, 従来のレゾマット T_3 と同じで, 異なる点は, 核種 (^{125}I)・使用血清量 (0.05 m*l*)・ローテート時間 (30 分間) である. 時間短縮が最大の特徴である.

対象は, 甲状腺機能亢進症 14 例, 正常 94 例, 低下症 3 例の計 111 例である. おのおのの TBC Index の平均値は, 0.78±0.06: 1.00±0.09: 1.20±0.08 となり, マリンクロット社のデータとほぼ一致した. 次に, 111 例について, レゾマット T_3 の TBC Index との相関を調べると, 回帰直線 $y=0.82x+0.18$, 相関係数 0.74 となった. また, 両者の差の検定を行なうと, $t_{111}=0.1$ となった. 以上より, レゾマット T_3 とレゾマット T_3 マイク

Presented by Medical*Online